



素早い手つきで、入念に確認をしながら塗装を重ねる。

株式会社美煌 びこう

経営探訪

職人技を高めて地域の光を目指す

チャレンジ精神旺盛な社長のもと、確かな技術と企業革新により、その規模を拡大している「美煌」。夢を実現し続けている社長の現在地、そして掲げる未来とは。

▶▶ 掲げた目標を着実に実現

象潟漁港や鳥海山の頂を目前に望む自然豊かな場所で、職人技を次世代に継承しようと奮闘している若き社長がいる。にかほ市象潟の株式会社美煌は、粉体塗装や静電塗装、焼き付け塗装、樹脂塗装などの機械塗装とシルク印刷を手がけ、法人化して今年で4年目を迎える企業だ。「プラモデル作りが好きで、十代の頃からエアブラシを使うのが楽しかった」と話す齋藤克彦社長は、地元の塗装会社に就職後、30歳までに独立する計画を持ちながら、技術を磨いてきた。リーマンショックの影響から一度断念するものの、「自分のビジョンで仕事をして、技術を伝えていきたい」という思いを持ち続け、35歳になる年に自分の城を構えた。

2018年に法人化し、工場を移転・拡張。その後、社長自らが習得したシルク印刷の技術を2020年から新事業に加え、塗装からシルク印刷までワンストップで対応できる体制を確立した。丸い面にもシルク印刷ができる技術を持つ企業は県内でも数少ないという。

現在は県内全域のほか山形県からも受注しており、新型コロナが収束した先には、関東や関西への営業も計画。「お客様からの、『肌(注：仕上がり)が違う』という言葉にやりがいを感じる」と話す齋藤社長は、「品質管理の徹底と納期厳守は絶対」という信念のもと着実に事業を拡大している。

▶▶ 外国人技能実習生を積極採用

事業拡大に欠かせない人材確保と、「ここで止まらず、海外にも技術を伝えたい」という齋藤社長の思いから、美煌では2020年4月よりベトナムからの技能実習生3名を迎えている。「技能実習生を受け入れている近くの業者さんの話をきいて興味を持ち、ベトナムに出向いて面接をしてきました。3人とも真面目で、この1年で技術がかなり向上している。期待以上の働きをしてくれて、その成果が売上にも反映されています」と齋藤社長は手応えを感じており、今年9月にさらに2名の受け入れを予定しているという。同社では、随時の中途採用と来年春には高卒の新卒採用も計画。技術の向上および継承と並行して、大ロットの案件を受注するため、ロボットの導入とライン化にも意欲を見せる。



社長自ら社員に声をかけ、積極的にコミュニケーションを図る。

▶▶ 地元の活力となれるように

高い技術を要する塗装の世界。齋藤社長は、「ただハケで塗ればいいんじゃないかと思われがちですが、様々な素材のものに塗装で模様を描くなど高度な技術が必要な場合もあり、自分だけの技術やノウハウが仕上がりにつながって評価される仕事です。色の出し方や道具の使い方などで個性が出るので、個々の得意分野を伸ばす育成を心がけています。また、頑張りに対してはボーナスなどできちんと評価するようにしています」と話す。社員には、その日の作業を終えれば、就業時間内でも自主練習ができる環境を提供している。

明確なビジョンと抜群の行動力を持ち、「分からないことがあれば、近場の仕事仲間や尊敬している諸先輩方に相談し、いろいろな人から助言をもらいながら行動を起こしてきた」という齋藤社長。地域との繋がりを大切にしている齋藤社長が目指すのは、「にかほ市をもっと大きく」すること。「若い人がどんどん出て行ってしまうという現状を変えたいので、まず地元の若い人たちに、市内や県内にも当社のように自身のスキルを磨ける企業があるんだということを知ってもらいたいですね」。

〈美しく煌めく塗装屋さんになりたい〉という想いで名付けた社名のように、美煌は地域を照らす光を確かに放ち始めている。



①集中して塗装を進める技能実習生のトゥンさん。②5000mmの製品まで焼き付け塗装が可能な乾燥炉を設置。③丁寧な研磨が美しい仕上がりに繋がる。④工場内は環境管理が徹底されている。

「品質管理の徹底と納期の遵守」をモットーに、誰から見ても仕上がりの良い塗装ができるよう、社員一同、技術向上に努めています。

代表取締役 **齋藤 克彦**
さいとう かつひこ



株式会社美煌

〒018-0108 秋田県にかほ市象潟町字入湖ノ潤27-1
TEL.0184-74-6264 FAX.0184-74-6265 <https://株式会社美煌.jp>

創業/2015年 資本金/300万円 従業員数/13名
業務内容/光学機器・医療機器・精密板金・各種焼付塗装・シルク印刷

